

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
○ 自ら学び、豊かでたくましい心身を育み、自己実現をめざす生徒の育成 ～凛々しく生きる塩中生をめざして～ ※ 学校スローガン 学校は「楽しい」ところ、 学校は「学ぶ」ところ、 学校は「鍛える」ところ	① 特色ある学校づくり a 開かれた学校づくりの推進 b 各学校との交流及び連携 ② 「心力」の育成 a 心の教育の充実 b 人間尊重及び生命尊重の教育の推進 c 生徒指導の充実 ③ 「学力」の育成 a 学習習慣の確立と基礎的な学力の向上 b 基礎・基本の確実な定着 c 職員研修の充実 ④ 「体力」の育成 a たくましい体づくり b 健康教育の推進

達成度 A:ほぼ達成できた  
 B:概ね達成できた  
 C:やや不十分である  
 D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
① 特色ある学校づくり (a 開かれた学校づくりの推進 b 各学校との交流及び連携)								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	○学校運営協議会との連携	・学校運営協議会と連携した行事の充実	・学校運営協議会の認知度を70%以上にする。 ・各学年それぞれに年間1回、学校運営協議会と連携した行事を開催する。	・学校運営協議会広報誌「凧」年間3回発行する。 ・1年生は、「お茶の入れ方」と「盆踊り」に学校運営協議会の協力を仰ぐ。 ・2年生は、学校運営協議会と連携して「職場体験」を実施する。 ・3年生は、学校運営協議会と連携して「お茶会」を開催する。	A	・学校運営協議会の認知度は、80%を超えている。 ・学校運営協議会と連携した行事の実施ができた。 ・運営協議会と連携して行事を行っていることの周知、情報提供が不足していた。	・行事のお知らせやおたよりでの紹介の時に周知、情報提供を行う。	A	・各学年全体が協議会との連携の実施ができ、今後も継続して開催していただきたい。 ・学校運営協議会は、よく機能している。 ・5年を経た学校運営協議会で、具体的な目標が現状とあっていない。目標設定の検討を。 ・学校運営協議会の認知度は、徐々に高まっている感じがする。 ・地域に根ざした体験学習や交流が行われている。
特定課題	○小・中連携教育	◎小中連携の能動的な取組と活性化	・校区内の課題について、全職員で共通理解を図り、生徒指導力の向上に向けた取り組みを進める。	・ろくさんプランを通して児童生徒の情報を共有し、基本的な生活習慣や学習習慣の確立に向けた対策を実践する。	B	・音楽、美術では、小学校との交流授業が実施できた。(専門性を活かした指導が役立った) ・ノーテレビ・ノーゲームデー、家庭学習ノートの取組は、校区内で歩調を合わせた取組ができた。	・読書活動の推進や、生活・学習習慣の共有化を行う。	B	・小中との連携を増やし、情報の共有化につなげていただきたい。 ・日本も韓国のように国をあげて、子どものゲーム対策に対応をしてくれればいいが。 ・専門性の必要な教科の連携は、ありがたいばかりである。 ・学習、生活、コミュニティスクール、特別支援といろいろあるが、「生徒指導」や「学力向上」など、1つに絞って取り組んだ方が良く感じました。
② 「心力」の育成 (a 心の教育の充実 b 人間尊重及び生命尊重の教育の推進 c 生徒指導の充実)								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実	・年間1回のふれあい道徳の時間を確保する。 ・日頃の道徳授業の様子を各クラス、月に最低1回は保護者等に紹介する。	・学年ごとに、教材の工夫をしたり、道徳コーナーを設置したりする。 ・道徳の授業を便りや通信等で、月に1回以上は保護者へ紹介する。	B	・学年によって取組に差があったが、同一指導案での授業や教材を共有下取組が行えた。 ・道徳コーナーの設置ができなかった。	・来年度は、各学年担当を中心にやっていく。そして、学校全体、学年全体で意識して、道徳授業を行う。	B	・道徳の授業を通じて、心身の向上に努めていただき、子ども達の感性を伸ばしていただく。 ・他人の辛さや痛みを感じられる感性の教育を期待します。 ・生徒の様子から、道徳教育、心の教育が図られていると感じます。
学校運営	○特別支援教育の充実	・教職員の意識の向上	・特別支援教育に関する意識が向上したと感じる教職員の割合を80%以上にする。	・特別支援教育に関する職員研修を行う。 ・年間5回以上の支援会議を開く。 ・支援が必要な生徒の情報を共有し、すべての教職員が対応できる校内体制を整える。	B	・アンケートでは、特別支援教育に関わる項目のよくあてはまるの合計が80%を越えていた。 ・生徒指導全体会や職員朝会の場を使って情報の共有が図れた。対応の仕方の情報交換があるとさらによい。	・職員研修、生徒指導全体会や職員朝会での情報発信や共有は今後も継続して行う。 ・よくあてはまるの35%をあげるために、全職員で対応できるように、支援会議や面談などで決定した個々の生徒への対応や約束事などについての情報を随時提供する。	B	・職員朝会で情報を末端まで伝えることができるので、継続をお願いします。 ・特別支援教育を実施するために必要な専門能力を教師自身が身に付けるための研修を充実させてください。 ・中学校の特別支援学級に入級する児童、保護者への進路相談について、小中の連携をより一層図っていく必要があるように思います。 ・今後とも連携をよろしく願います。特に生徒に係る情報共有は、重要だと思えます。
教育活動	●いじめの問題への対応	・早期発見・早期対応体制の充実	・実態把握のために月に1度、「生活アンケート」を実施する。 ・生活アンケートの結果、気になる生徒には3日以内に対応する。	・学活ノートの点検による問題の早期発見に努める。 ・教育相談やQUテストを活用して早期発見を図る。 ・SCと連携を図り、可能な範囲で計画的に構成的エンカウンター等の授業をITで実施する。 ・生活アンケートの結果を職員全体で共有する。	B	・生活アンケートで分かった事案に対して、学級・学年で対応した。 ・管理職への報連相も早期に行った。 ・毎月の生徒指導全体会で、情報を全職員で共有した。 ・学活ノート、教育相談、Q-Uテストは、有効活用ができた。 ・いじめではないが、友人関係のトラブルが数件あった。	・部活動でのトラブルが多かったので、臨場指導を心がけ、生徒との関係を密にしていきたい。	A	・細やかな気付きを見落とさないようにしていくことが大切。 ・メディアで取り上げられることが多くあるので、様々な情報や対策案を見える化し、情報の共有化を図ってほしい。 ・部活動は、中学生の学校生活にとって、とても大きなウエイトをしめるものであるため、部活動でのトラブルを減らすことは、必要な課題であると思います。 ・いじめを生み出さない集団づくりの自己評価は、それ相応の取組ができています証左だろうと思われ好結果だと伺える。 ・部活動での自主性と、いじめ等未然防止のための何らかの見守りのてんびんは難しいところ。しかしながら、いじめ、トラブルは防止していきたい。 ・アンケート等活用し、早期発見、早期対応の仕組みができ、全職員で情報を共有し、取り組まれている。

③「学力」の育成 (a 学習習慣の確立と基礎的な学力の向上 b 基礎・基本の確実な定着 c 職員研修の充実)								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校関係者評価委員の 評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●学力向上	・家庭学習習慣の定着	・定期テスト前に家庭学習強化週間を年4回設ける。 ・家庭学習ノートの取り組み方について各クラスで指導する。 ・毎日、計画的に課題に取り組みさせることで、家庭学習の習慣化を図る。	・家庭学習強化週間の前に、計画表を記入させ、個々に対応したアドバイスをする。 ・「家庭学習の手引き」を作成し、学習例を生徒に紹介する。 ・国語、数学、英語については、毎日取り組む課題を設定する。	B	・家庭学習ノートの取組は、ほぼ習慣化されてきたが、内容について個人差がある。 ・毎日取り組む課題は設定されていたが、取り組み方に多少問題があった。 ・1年生については、「家庭学習の手引き」を作成し、学習例を紹介することができた。2、3年生についても具体例の紹介ができ、活用する生徒が増えた。	・個別の指導や家庭との連携を図る。 ・学校独自の「生活と学習の記録」を作成し、活用することによって家庭での学習習慣を把握し、個別の指導・支援に生かす。	B	・家庭での学習については、個人差が大きいと思われる。2年生のうちに学習レベルを定着し、3年生に備えたい。 ・生徒の学力定着を図るために家庭学習は欠くことができない一方で、配慮を要する子どもについては、その子に合った量や内容等、配慮が必要だと思う。 ・家庭学習の評価点は、2回目は1回目より下降しているが、学習ノートの定着も図られており、個々の生徒に合った取組の工夫が望まれるのではないか。 ・「家学ノート」は、小学校でも行っているが、やはり習慣づけのためにも、重要だと思う。 ・中学校での家庭学習について、小学生には不安が大きいようです。「指導の手引き」は、有効だと思います。小中の連携での指導の系統として、共通理解を、より図っていったらと思います。 ・忙しい中に、家庭学習の定着のため工夫をしながら取り組まれている。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	・ICTを活用した授業の実践	・ICT機器を利用した授業を、各自30回以上実践する。 ・ICTを活用した授業を受けることが楽しく感じる生徒の割合を80%以上にする。	・ICT機器の利活用調査を行う。 ・ICT利活用についての各種研修会を年2回行う。 ・ICT機器の配置を検討する。	A	・学校評価アンケートの結果、パソコンや電子黒板を使った授業が好きであるという質問に対してよくあてはまる、大体あてはまるの合計が生徒及び保護者ともに90%を超えており、ICT機器を効果的に活用することができている。 ・利活用した職員もアンケートの結果、積極的に活用していると答えた職員はよくあてはまる、大体あてはまるの合計が100%あり十分に活用されている。 ・ICT機器の配置も検討し、全学級に電子黒板を配備し、音楽室、美術室にも設置することができた。	・機器の老朽化が進み、不具合や操作がうまくいかないことが発生しているため、計画的に機器を新しくできるように要望を出していく必要がある。	A	・回数も多く、生徒の知識を向上させることが必要と思われる。 ・これからの社会は、コンピューターは必須であるため、ICT教育の充実を望みます。 ・子ども達の評価も高く、効果的に活用されている。
学校運営	○教職員の資質向上	・授業力の向上	・全員参観の授業研究会を年3回実施する。 ・全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の前年度の12月調査を上回る。	・話し合う活動を位置付けた授業の工夫をする(「学びのユニバーサルデザイン」を活用して)。 ・年間計画を5月末までに作成し、月行事(週行事)予定に記入する。 ・授業参観シートを活用し、参観の視点を絞る。 ・全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果分析(4月・12月)を行い、授業改善を図る。	B	・年3回の授業研究会及び指導案検討会を行い、全職員で授業参観シートをもとに意見交換を行い、指導力向上に努めることができた。 ・学校評価アンケートから、職員の「指導力向上に努めている」ポイントが下がっており、生徒の「学校の授業が分かる」ポイントも下がっている。	・全職員が授業力向上に関心を高めるような手立てを検討する。 (例) ・教師の単元振り返りチェックをする。 ・年度末に校内研究の内容に合わせた個人で実践をまとめる。	B	・生徒が理解できる授業を作る。(理解できない生徒を理解させる) ・教師の力量は、いかに授業が楽しく、わかる授業を展開できるかだと思います。先生方の能力と人間性の研鑽を期待しています。 ・わかる授業の取組で、三者とも0.1ポイント程度下がっているが、評価は主観的数値で、一喜一憂する必要はないのではないか。 ・生徒がわかった、できたという認識、実感があるかに主眼を置いた指導力の向上に努めてほしい。
④「体力」の育成 (a たくましい体力づくり b 健康教育の推進)								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者評価委員の 評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	・健康への意識向上	・保健だよりやアンケートを通して朝食をとることを啓発し、朝食をとって登校する生徒の割合を90%以上にする。 ・健康教育を通して、段階に応じた生徒一人ひとりの心身の健康・増進に取り組む。 ・昨年度劣っていた種目、男子【握力・柔軟性】、女子【柔軟性】の数値については、全国平均・県平均を超える。	・保健だよりを通して、基本的な生活習慣(朝食・睡眠等)について保護者に啓発する。 ・生徒会活動(保健・体育・給食)を通して、生徒自らの健康意識を高めさせる。 ・体力テストの数値が全国平均・県平均を超えるよう、日々の保健体育の授業や部活動での体力づくりの取組を継続させる。	B	・生徒会活動を通して、食事・睡眠・運動の大切さを新聞発行で啓発したり、呼びかけができた。うがいや手洗い、換気の励行もできた。 ・1年間で4月測定より一人一人の結果が向上し成長がみられた。 ・朝食のアンケートでは93%を超える結果がみられた。	・生徒会活動では、4月と1月の健康に関する意識調査を実施して、数値の確認をする。 ・来年度も柔軟性の向上を目指して、体育と運動部活動で継続して取り組む。 ・食事とともに大切な睡眠に関しての重要性を今後、家庭や生徒に自分のこととして捉えるような取り組みをしていきたい。	B	・健康への意識を向上させるために、起床、睡眠などの時間調査を実施してはどうか。 ・家や部屋にとじこもる子どもが増えてきている中、外で思い切り活動させる時間を増やすことが大切ではないでしょうか。 ・これだけの部活動の戦績は、部活動だけによるものではないと感じます。 ・体力テストでは、ほとんどの種目で全国、県平均を上回り、駅伝大会においては、男女とも優勝という結果は素晴らしいと思う。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								学校関係者評価委員会から	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	学校関係者評価委員の 評価 (A～Dで記入)	意見や提言など
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務の効率化	・校務の整理や役割分担の明確化を行う。 ・行事の精選に取り組む。	・現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。 ・前年踏襲ではなく、2年後の学校の現状を考えながら、行事全体を見直す。	A	・次年度のクラス数、職員数、新学習指導要領への移行を考え、体育大会マスメームの中止、文化発表会の内容の精選をはじめ、行事の見直しを行うことができた。 ・校務分掌の見直しは、大きく前進できなかった。	・新年度の職員構成に沿った形で、校務文書案を作成し、業務の効率化を図る。 ・部活動の従事時間の縮減が課題である、部活動運営方針に沿って進めていく。	A	・様々な部分でのスリム化が必要ではないか。 ・これまでの業務を工夫していくことにも限界がある為、思い切って根本から業務自身を統合、削減、廃止していく勇気も必要だと思います。 ・部活動運営方針の今年度との変更点は、どのような変化を見込まれているのか。 ・保護者アンケートの中に、体育大会、文化発表会に対する意見を目にしたが、行事内容の精選は必要であり、要望は聞きながら学校主体で取り組む姿勢が重要であろうと思う。 ・この変更に係る、学校の英断には敬意を表します。 ・行事の精選、運営の工夫、部活動の再編等、大きなエネルギーのいる改革に取り組まれてきたことに、敬意を表します。 ・行事の精選は、校長先生の覚悟を感じました。 ・保護者からのコメントは様々ありましたが、行事や部活動の見直しは大変だったと思います。

#### 4 本年度のまとめ・次年度の取組

「① 特色ある学校づくり」については、学校運営協議会の協力もあり、充実した活動が行えた。今後も学校運営協議会の助力を受けながら、凛々しく生きる塩中生徒の育成のために尽力していく。「②「心力」の育成」については、生徒指導免、いじめ防止対策、特別支援教育の充実については、情報の共有化を図り、全職員で同じ方向性を持ち取り組むことができ、一定の成果を得た。道徳教育の充実については、学年で取り組みに差があった。次年度は、道徳推進教員を中心として、“特別の教科 道徳”の充実に向けて取り組んでいく。「③「学力」の育成」については、研究授業を実施し、授業前の指導案検討、研究授業、授業研究会の3つをセットとして行い、職員の意識の向上につなげることができた。家庭学習の定着、充実が大きな課題である。新しい記録表を作成し、生活時間の実態把握をおこないながら、タイムマネジメントなどの充実を図っていく。「④「体力」の育成」については、保健体育の時間の取組を通して、一人一人の結果が向上し成長がみられた。また、健康への意識向上については、生徒会活動と連携しながら啓発が行えた。引き続き生徒会と連携しながら意識向上を図っていく。業務改善・教職員の働き方改革の推進については、行事の精選について、一定の成果が出ている。次年度は、部活動指導時間の縮減が大きな課題である。部活動運営方針を遵守し、取り組んでいく。